

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	249	○事業所と地域とのつきあい コロナとの共存が予測されるなか、今後に向けた新たな取り組みの工夫、手立てなど、地域密着型の進化についての検討は更に必要と思われる。 ○日常的な外出 事業所の方針「施設の中だけで生活が完結してしまわないようにする」に向けコロナ禍の中出来る事を検討。	○コロナ禍前の生活に近い状態に戻る。 コロナ禍の中でも、施設だから出来ない考え方ではなく、施設でも出来る事を考え、提供出来る体制作りを行う。	・地域及び身近な場所での感染状況を十分に把握した上で地域の行事等への参加を検討していく。 ・感染状況が落ち着いているタイミングで家族会開催出来る様、実現出来る準備をしていく。 ・飲食を行わなくても楽しめる外出等感染対策をとりつつ場所も考慮しながら施設外で楽しむ方法を実践。 ・感染前にあたり前にしてきたことを少しでも近づける努力をしていく。	6ヶ月
2	67	○身体拘束をしないケアの実践 虐待、権利侵害とは言えなくとも、利用者に対する職員の気になる言動等に対して、客観的に振り返る機会を設けていく必要がある。	○身体拘束及び精神的拘束ゼロを目指し、利用者が抑圧感を感じずに、利用者中心の生活が送れるような場所作りを行う。	・高齢者虐待防止関連法についての研修会を定期的実施することで職員の意識を高める。 ・毎月の部署会において日常的な関わりの中で利用者に対する不適切な言動がないかチームで振り返る(些細な事も都度話し合い改善する。自己反省出来る雰囲気を作る) ・身体拘束はもちろん、言葉の拘束や抑圧感のない生活を楽しんでもらう為に出来るケアをチームで検討しながら実践していく。	6ヶ月
3	23	○思いや意向の把握 利用者の意思決定支援において、一人ひとりの意思の形成、表明、実現の各支援と、職員がその振り返りが可能となるような仕組み作り、また、多くの選択肢の提供で、利用者との馴染みの関係作りを改めて行っていく必要がある。	○利用者一人ひとりと真摯に向き合い、その人らしい生活が送れるようにしていく。施設内で完結するだけでなく、ご家族の支援も受けながら想いを実現出来るようにする。	・職員は利用者と共に生活する中で本人の意向や思いを聞き取る努力をする。 ・一人ひとりの思いを実現出来る様個別カンファレンスを定期的実施しチームで支えて行けるようにする。 ・家族からの情報を大切にし家族と職員が共に本人を支えていく関係作りをしていく。	6ヶ月
4	36	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 共に生活をする中で馴染みの関係となり、ともしれば馴染みの言葉遣いになりがちとなってしまう。常に年長者としての敬意を払い、丁寧な言葉遣い、尊敬語で接することが大切で、職員のマスク着用で表情が分かりにくい分、言葉遣いの重要性、声かけの方法についても検討していく必要がある。	○利用者一人ひとりに対し、その人らしい姿を大切にする。日頃の関わりの中での職員側の言動を振り返り、心地良い過ごし方が出来る対応を行うようにする。	・「染みの関係と馴染みは違う」という事を職員一人ひとりが理解できる様、話し合いを重ねていく。 ・職員同士お互いの行動を尊重しつつ馴染みにならないよう自己の振り返りや注意し合える環境を作る。職員が上にたつような事がないようにする。 ・マスク生活によるコミュニケーションの取りにくい部分を把握しつつ見うる部分での表情作り、温かく柔らかな会話を心がけ、利用者と共に生活を楽しむ努力をしていく。	6ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。
複数のユニットを有する事業所において、事業所全体でユニットごとの目標の総括を行う場合は、本様式を1つ作成して下さい。